

国語 第2学年 詩を作って、読み合おう

検討会の想定問答

指摘 1：この単元で身に付けることは何か。

返し：見たり聞いたり触れたりしたときの発見を言葉にし、友達がその詩のどの表現から様子を思い浮かべたかを伝え合う。詩らしく見せる改行だけで満足せず、作者が表したかったことと読み手に伝わったことを比べる。B(1)オの学習として、自作の詩と読み手の感想カード。残したい言葉、言い換えたい言葉と理由を作者が記す。

指摘 2：何をもって学習できたと判断するか。

返し：おおむね満足できる状況は、友達と詩への感想を伝え合い、思い浮かんだ様子を手がかりに自分の表現のよいところを見付けているという姿で捉える。語句や本文を示さず結論だけ述べる場合は、根拠を確かめる支援を行う。発言の回数や記述の長さでは判定しない。B(1)オの姿を本時の発言と記録に照らす。

指摘 3：活動が楽しいだけで終わらないか。

返し：自作の詩と読み手の感想カードを残す。残したい言葉、言い換えたい言葉と理由を作者が記す。活動後に、どの言葉を根拠にしたかを確認することで、B(1)オに関わる学習の中身を確認する。

指摘 4：難しさのある児童にはどんな支援をするか。

返し：よかった、おもしろいだけの感想になる。行を短くすれば詩になると思う。読み手の好みに合わせて全て直そうとする。これについて、読み手は印象に残った言葉を示し、そこから浮かんだ様子を話す。作者は意図を後から伝える。書けない児童は観察した動きや音を口で話し、その言葉を教師と並べる。〔知識及び技能〕(1)オとB(1)オを切り離さず扱う。

指摘 5：考えが違ったときはどう扱うか。

返し：教師の結論を選ばせず、「友達の詩のどの言葉から、どんな様子が思い浮かびましたか。書いた人は、どんなことを表したかったのでしょうか」に戻す。言葉や本文で確かめられる点と、個人の感じ方を分け、B(1)オに関わる根拠を話し合う。

指摘 6：本時の評価で態度まで決められるか。

返し：本時の参加の様子だけでは決めない。学年の目標(3)を受け、単元を通した記録と見直しの理由を合わせて判断する。発言の多さや従順さを態度の評価にしない。

指摘 7：端末がない学級でもできるか。

返し：自作の詩と読み手の感想カードは紙に記録できる。残したい言葉、言い換えたい言葉と理由を作者が記す。端末があれば書き直し前後を保存して比較する。道具の操作をB(1)オの評価の代わりにしない。

指摘 8：時間が足りないとき、どこを残すか。

返し：総時数の出典は光村図書出版の年間指導計画である。活動量を調整する場合も、本時の問いを自分で考える場面と、根拠を比べて記録を見直す場面は残す。B(1)オで目指す姿が確認できるように配当を組み直す。

指摘 9：比喩や反復の用語を教えるのか。

返し：第2学年では〔知識及び技能〕(1)オとB(1)オに沿い、様子が浮かぶ言葉とそのよさを扱う。表現技法の名称を覚えたかは評価しない。

指摘 10：振り返りを感想だけにしないためには。

返し：「友達の詩のどの言葉から、どんな様子が思い浮かびましたか。書いた人は、どんなことを表したかったのでしょうか」への答えを学習前後で読み比べる。変えた点に加え、理由を確かめて残した点も書く。B(1)オに関わる言葉の捉え方・使い方を記録する。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

